

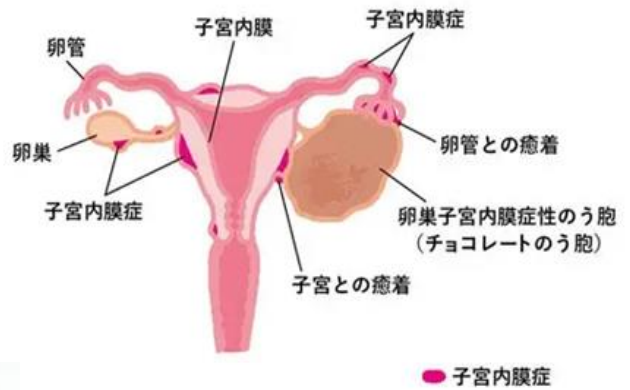
# 女性特有の疾患について

## しきゅうないまくしょう 子宮内膜症

20～40歳代に多い疾患です。  
ピークは30～40歳といわれています。

月経で剥がれ落ちるはずの内膜が何らかの原因で、子宮の内側以外の場所に入り込み発育してしまう病気です。不妊症の原因にもなります。

女性10人に1人がかかる病気で、子宮内膜症になる前にはかなり月経痛がひどくなることがわかっています。一部の子宮内膜症患者は卵巣がんになってしまうことがあるので注意が必要です。



～症状～

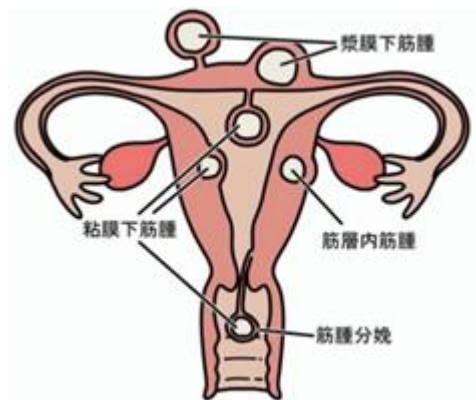
月経痛（月経困難痛）は子宮内膜症の9割にみられます。月経でもないのに、下腹部や腰が痛かったり、排便や性交の時に痛みを感じる場合があります。

つらい月経痛は放置せず、相談・受診を検討しましょう  
気になる症状があれば、産婦人科を受診しましょう！

## しきゅうきんしゅ 子宮筋腫

比較的若い方から閉経後の方まで高頻度で見られる疾患です。

子宮を構成している「平滑筋」という筋肉組織由来の良性腫瘍です。できる部位によって分類されます。子宮筋腫があっても症状がなく、それほど大きくないもの（拳大くらい）であれば、定期的に検診を受けるだけで、治療を必要としないことが多いです。



～症状～

過多月経・過長月経・月経痛・腹部腫瘤触知・頻尿・便秘・貧血など

気になる症状があれば、産婦人科を受診しましょう！

## しきゅうけい 子宮頸がん

30～40 歳代に多く発症します  
(20 歳後半の発症も増えています)

子宮の入り口(子宮頸部)にできるがんです。原因はヒトパピローマウイルス(HPV)というウイルスで、主に性交渉によって男女問わず感染します。

HPV ワクチンの接種は、子宮頸がんの原因となる HPV 16・18 型の感染を防ぐ効果があります。持続効果は接種後 10～12 年といわれていますが、接種する年齢や種類によって異なるため、接種する医療機関にご確認ください。

～症状～

月経のとき以外の出血・おりものの異常(茶褐色、黒褐色のおりものが増えるなど)・足腰の痛み・血が混じった尿

HPVに感染してから3～10年以上経ってから子宮頸がんになるといわれています。

がんになる前の段階で発見できるよう20歳を過ぎたら2年に1度の検診を受けましょう。

**町でも子宮がん検診を受けられます！**



## しきゅうたい 子宮体がん

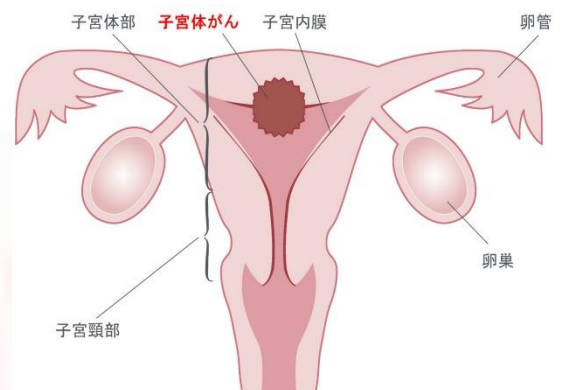
40 歳以降から増え始め、最も多いのは 50～60 歳代です

子宮の奥の子宮体部にできるがんです。主な原因は女性ホルモン(エストロゲン・プロゲステロン)の働きが乱れることで発生すると考えられています。閉経後の病気と思われがちですが、最近ではどの年代でも増えているので閉経前の若い年代でも注意が必要です。

～セルフチェック～

- 月経以外に出血がある
- おりものに色がついていたり、悪臭がすることがある
- 閉経後に不正出血がある
- 30 歳以上で長期間の月経不順がある
- 妊娠・出産の経験がない
- 肥満がある
- 血縁者に子宮体がん、大腸がん、胃がん、泌尿器系のがんなどを発症した人がいる

※チェック法は目安であり、これだけで診断されるわけではありません。気になることがあれば相談・受診を検討ください。



最も多い自覚症状は不正出血です。月経ではない期間や閉経後に出血がある場合は注意が必要です。特に更年期や閉経後に不正な出血がある場合は産婦人科を受診してください。